

義太夫

新年を迎えて

義太夫協会会報
第62号

平成8年1月1日
社団法人 義太夫協会発行
〒104 東京都中央区銀座
6-18-2 新橋演舞場B2
TEL (3541)5471

社団法人義太夫協会会長

景 山 正 隆

明けましておめでとうございます。

わが義太夫協会は、昨年の七月一日の総会で役員の変更が行われまして、新役員により運営されることになりました。新年に当たり心機一転、将来に期待をかけてさらなる発展を目指したいと存じます。なにとぞよろしくお願ひ申し上げます。

旧年は、国立劇場演芸場における「女流義太夫演奏会」、六、七月の義太夫教室など、協会の諸活動は滞りなく行われ、また年末には、NHKの「芸能花舞台」に取り上げられるなど、今のところ順調のように思われますが、最近の社会情勢を思いますと、義太夫に

限らず、伝統芸能とりわけ邦楽のおかれた状況は、必ずしも順境にあるとは言いがたく、予断を許さぬものがあるように思われます。氣持を引き締めて将来に臨みたいものです。

今年の九月二十九日から十月一日にかけての三日間、淡路におきまして、第五回全国人形芝居サミット&フェスティバルが開催されました。私は、義太夫協会の新会長という立場で、シンポジウムのパネラーとして参加しましたが、テーマは「指導者と後継者」という問題でした。全国には現在百以上の人形浄瑠璃の保存会があり、それぞれの地域社会において伝承活動が行われていますが、当面し

ている最も大きな問題点は、大抵のところでは義太夫の太夫や三味線の後継者難で悩んでいるということです。

また、いま地方ではちょっとした地芝居ブームで、全国には百二十以上の歌舞伎保存会が、伝統文化として地域社会の活性化の一翼を担って盛んに行われています。ところが、地芝居もまた義太夫(竹本)の人材不足に悩んでいるところが多いのが実態です。

私は、淡路のシンポジウムで、文楽以外の全国の義太夫人口(女人ばかりでなく素人も)の実態調査が早急を実施されることの必要性を提言しました。今や、地方の義太夫節は、全国の義太夫人口の実態を踏まえて、指導者と継承者の近隣同士のネットワークをつくることなどにより、保存・伝承の具体的な対策を立てないと、急速に衰退の一途を辿るのではないかという危惧を覚えます。この問題に對しても協会の果たすべき役割があるのではないでしようか。

私は、協会会員の皆様のご理解を得て、全国義太夫人口の調査を実施し、その上で伝承・発展の対策を図ることを、本年の仕事にしたいと思っております。



謹賀新年

新年明けましておめでとうでございます。
 義太夫協会の役員は昨年の総会において次の通り選出されました。略儀ながら紙面にて御挨拶申し上げます。
 義太夫協会ならびに義太夫節保存会は、本年も義太夫節の普及・発展のため力を尽くす所存でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

社団法人 義太夫協会

野	豊	豊	豊	鶴	鶴	鶴	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	景
澤	澤	澤	澤	澤	澤	澤	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	山
吉	幸	源	瑩	友	津	寛	土	土	越	越	綾	綾	綾	素	越	駒	朝	正
平	治	平	緑	路	寿	也	子	恵	若	孝	夫	一	夫	八	道	助	重	隆

監事

池 佐々木 弘明 一郎

名誉会長 最高顧問

吉 田 川 辺 英 秀 史 雄

参事

竹 本 春 華
 鶴 澤 駒 登 久



新役員紹介

□館野善二氏(邦楽評論家)は、昨年7月14日の、定例理事会において義太夫協会の推薦会員に推薦されました。

□竹本駒龍師、鶴澤駒登久師の両師は、昨年12月28日の、理事会において義太夫協会の参与に推薦され、ご承諾下さいました。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

重要無形文化財総合指定

義太夫節保存会

理 会 長	竹 本 越 道
参 事	竹 本 弥 乃 太 夫
参 事	鶴 澤 駒 登 久
参 事	野 澤 吉 平
参 事	吉 平
参 事	田 川 秀 史

「一年の計は元旦にあり」各部長より、お年賀を兼ね今後の展望や抱負などを頂きました。

△本業研修部▽

初春のおよるこびを申しあげます。

現在東京の女流義太夫演奏家の人数は、ほぼ中堅若手で形態されており。一朝一夕でならぬ浄瑠璃ですので、常に芸とむきあう姿勢や精神そして自己のあり方をも問われます。改めて公演を続けて行くことの意義を再考しつつ、これからの方々と研鑽しあい又、微力ながら御手助けすることができればと存じております。

本年も相変わりますよろしくお願い申し上げます。
竹本 駒之助

△舞踊研究部▽

協会研修部三部門の内、本行部門を除いては、竹本部門、舞踊部門の二部門が男性会員で占められている。といっても実際には竹本部門は独自歌舞伎の竹本の人達により、別に竹本協会を結成してそれなりの研修が行われ、また舞踊部門は竹本協会の協力によって、(私もその一人だが)個人の事業として義太夫協会とは全く別個に活動を続けている。

舞踊部門については、関西方面はいざ知らず、関東では舞踊の地方は、歌舞伎の竹本が男性であるように、男性が主として務めているのが現状である。ご承知のように因会の昔から義太夫協会男女正会員の比率は70%が男性で占められていたが、年々と男性が減って

現在女性が大半である。従って、もし今後協会が窓口となって、舞踊の地としての他からの依頼があれば、女性会員の中で、いつでもそれに対応できる態勢を整えておかねばならない。許されるならば、予算の配分が出来次第、新年度から着手したい考えをもっている。それに関する講師委嘱、育成方法、マネージ等、細則を作成して臨みたい。

竹本 弥乃太夫

△普及部▽

学校巡演の依頼事業はこのところないが、毎年開講している義太夫教室は、第48期延長授業として、語り(竹本素八、土佐恵指導)と三味線実習(鶴澤駒治指導)が毎週月曜日スペースアルファにて行われている。生徒数は昨年に比してかなり減少した。やや下降線を辿るとなると少し考えを新たにしないでならない。しかしながら語り、三味線ともそれぞれ常時15、20名程度だが熱心に授業を受けている。

新年度(平成八年度)義太夫教室は第49期の開講5月27日(月)、閉校7月19日(金)で、例年どおり、毎週月、金。会場はスペースアルファ。実技指導は、語りが(竹本綾一、竹本越若)、三味線(鶴澤駒治)、講師は従来の諸先生方の予定で準備が進められている。
一日体験教室が、語り4月7日(日)、三味線4月14日(日)、会場はスペースアルファで開催の予定。又義太夫教室OB会は、48期卒業公演を教室OBとともに、2月24日(土)

東京証券会館ホール(正午より六時ごろまで、出演者数にては時間延長)にて開催。

普及部のメインである義太夫教室は、義太夫協会が法人化した昭和45年以来、毎年応募の生徒数に大きな減少もなく、これまで40名程度、順調にその成果を挙げている。

義太夫協会の賛助会員、文楽の愛好家、歌舞伎の愛好家、それらの一大原動力となっている義太夫教室、また義太夫協会所属の女性義太夫プロの若手の大半が、教室出身であることなどを思うと、実技内容や技芸の育成はじめ、さまざまに義太夫の普及に協力をいただいた多くの関係者各位に感謝を致すとともに、今後更に責任をもって関係者は対処して行かなければならないと痛切に感じています。

竹本 弥乃太夫

△公演部▽

多難の年 平成七年をふりかえりみる新春の到来でございます。

女流義太夫公演 一同、心を合せて幕を開けさせていただきます。明るく良き年になります様 皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。
竹本 朝重

△編集部▽

皆さま あけましておめでとうございます。昨年から今年にかけて、会員相互での会の催しがめだっております。愛好者の増員確保につながることはもとより、プロ、アマ共

にそれぞれ良い刺激を与えられ励みあう機会がふえました。

街は騒然と相かわらぬいやな話題で盛り上がっておりませんが、会報は明るく前向きな記事を載りあげてゆきたいです。今年も引き続き勢いある活動を期待しつつ、色々なお知らせご報告をお待ちしております。

竹本 越孝

△資料・記録部▽

A Happy New Year

なんと若輩ながら、唐突な資料記録部長になつてしまいました越若です。よろしくお願ひします。

Windows95が大騒ぎの一九九五年、一九九六年はどうか使いこなせる年になるのでしょうか？

新し者好きの越若も、昨年マシンも新たにWindows95を導入し、徹夜・半徹夜すること二週間、やっとインターネットにも潜入し、サクサク動くWindows95の世界に夢中・熱中、夢にまでWindows95ロゴマークが出てくるしまつです。

さて、今年はずいぶん義太夫協会にもパソコンを導入してデータの整理、検索、パソコンにホームページなんてきたらグーですよ。今年の抱負にしましょう。そうだったら、事務所のパソコンと接続して我が家のパソコンで在宅入力というのも夢ではない。Windows95ならすぐできるぞ。

会員の皆様、データベースの構築のノウハウ、ホームページのアイデア、パソコンの面白い料理の仕方を教えてね。電話、FAXジャンジャンください。待ってまーす。

竹本 越若

△経理部▽

いま大きな救世主が現れないと、義太夫協会の屋台が崩れてしまう。直接利害に及ばないので、理事の方たちはさほど心配はしておられない様子、然し宗教法人法改正の余波で、芸能の公益法人である義太夫協会に、助成金が削減されたりしたら運営が立ち行かない。会費で運営する社団法人、とくに義太夫協会は、一定会員による会費と助成金がなにより収入源。それに不特定による寄付、となると会費の値上げ、入場料の値上げ、養成費等の経費の大幅削減は必至、前回の理事会ではその検討に入ったが、具体的には未決定である。一定の収入のなかで、伝統の灯を消さないよう努力頑張るしか方法がない。

良い企画、納得の行く舞台、演技、その技術養成、それらには当然のごとく経済が伴う。関係者各位の自己犠牲、いわゆるボランティア活動でこれまで危機を凌いでは来たものの、限界は超えた。協会の顔でもある毎月の公演会に、赤字が累積している現状を、公演部がもっと深刻に受け止めなければ、いくら経理部が声を大にして叫んだ所で、所詮犬の遠吠えとしか思われていない。よい仕事はしたい、しかしそれにはお金がかかる、どうしたらいい

のか。女性当事者で考えていただきたい。漠然と、そのためには助成金が入るじゃないかと思わないでいただきたい、その使途にも限りがある。顧問税理士と経理部では、毎月克明に数字と睨めっこをして、頭を抱えているのですから、今後も笛吹けど踊らずにならないよう願います。

竹本 弥乃太夫

△備品部▽

お目出度御座居ます。皆様のますますの向上を御歓迎申し上げます。私も一生懸命ついてゆきます。皆様のけんこう御願ひ上げます。

野澤 吉平



子の年に因んで

竹本弥乃太夫

平成7年の不況や災い多い年が明けて、十支の初めの子(ネズミ)から始まる平成8年の年頭に当たって、今年こそ景気回復し、平穩で大いに実りのあるよい年にしたいものである。

さて平成八年は丙子(ヒノエネ)である。十千と十二支の組み合わせで、10×12の最小公倍数60から、60年に一度同じ組み合わせが回ってくるのは「還暦」で、ご承知のとおり、月にしても二ヶ月に一度、即ち60日に一度同じ組み合わせになる。例えば、庚申の縁日で賑わう柴又の帝釈天も、二ヶ月ごとに庚申(カノエサル)がやってくる。同様に甲子(キノエネ)の日は七福神の大黒天の縁日である。大黒天とは、もともとはインドのシヴァ神の別名で、のち仏教の守護神となり、我が国では大國主命と習合して、台所の守護神となったと、辞書にある。色の黒いのが自慢にてと、大黒様が大きな袋を肩にかけて米俵の上に打出の小槌をもって座っているの、お米はネズミに縁があるし、また色の黒さも頷ける。さてお正月と言えば、七柱の福德の神が安置してある寺社を巡拝する七福神詣でが盛ん

である。江戸時代から正月の行事として、一年の家内安全、息災延命を願って民間の信仰として流行した。そして七福神の神々はまことにユーモラスな群像でもある。

都々逸をひとつご紹介しよう

《七福神、男六人 女が一人

だれが乗るやら 宝船》

いみしんで楽しい。ところが最近のコマーシャル、七福神の神様たちが一緒に旅行した、弁天さんが風呂場で片肌脱ぐのを男の神々が一斉に覗き見る。なんの奥ゆかしさのないのも、これまた現代の風潮か。横道にそれてしまったがさて、

義太夫でも歌舞伎でも、ネズミに縁があるという又何だろう、思い浮かべてみよう。まず「伽羅先代萩」の奥御殿か、「ああら怪しやな」で荒獅子男之助に踏まえられたドブネズミ、眉間を割られて逃げると、白煙りが上がって、スッポンから印を結んで仁木弾正となつてせりあがる。四つ花菱の高麗屋の紋の袷が印象的である。

「八陣守護城」では、毬川玄番が妖術を使

って、正清の動静を探るためネズミに変ずる。声の鍛練と言うことでこの八陣を稽古してもらったとき、最初の切り場が「鼠」

太十でどこまでやりますか、「行き方」までとか「操」までとか語りの一区切りを言うように、八陣では、《一鼠となって逃げ去りける》が一ブロックの終わりだからその印象が強い。

「祇園祭礼信仰記」の金閣寺の雪姫は、歌舞伎では三姫の一つで難役とされている。桜の木に縛られ、折から降り注ぐ桜の花びらを、父雪舟の故事にならって足でかき寄せネズミを書く。すわすわ動くは花の毛色の白ねずみと、本当のネズミとなって縄を食いちぎり、姫を助ける。ご存じ「爪先鼠」である。

「鼠の道行」は地唄からとって義太夫に書き換えたもの、二十日鼠の夫婦が、梅川忠兵衛となって道行きをする。ところへ鼠に縁のある大黒様がニコニコと出て来て「汝ら今年は大内山に慶事があって、益々御国は万方才である、いよいよ国のために忠、忠と忠勤励みなば、わが眷属に召しつかわん」と言つて自ら踊りだす、《松

は高砂、爺さまと婆さま、いざや清めん木の下かけ、お前百年わしゃ九十九まで》
踊り狂じて大黒天、
打ち出の小槌打ち振りたまえば、山なす子宝黄金の山、御代



は万歳万才、治まる御代こそ目でたけれ、とむすんでいる。真にユーモアあふれる義太夫である。

慶事といえば、それこそ今年あたり、皇太子一家に皇子誕生のおめでたがあるかも知れない、国民の待望するところである。

舞踊で有名なのは「鳥羽絵」こちらは清元だが、鳥羽僧正の名に因んだ変化物の所作事で、大店の台所、縫いぐるみの大ネズミが飛

鶴澤賀昇師逝去



平成七年九月二十九日午後十時、心不全にて逝去。享年八十一才
本名 望月チヨ
重要無形文化財「義太夫節」総合指定保持者

び出し、半襦袢、半股引、寝間着姿の下男升六が、大枡をもって追っかけてくる、軽妙な人と鼠との踊りである。

逆に怖いのは鶴屋南北の「東海道四谷怪談」である。大岩さんは子年の生まれだそうだが、亡霊となってお岩は、伊右衛門に恨みを晴らすため鼠となって蛇山庵室の場では、自分の生んだ赤子を食い殺す。女の執念、全く驚き恐れる話ではある。

津賀昇姉様逝去

義太夫協会副会長

竹本朝重

鶴澤津賀昇姉様が亡くなりました。私にとりまして忘れ難い御方でございます。

恩師鶴澤重造師のおはからいで昭和三十六年九月二代目朝重襲名披露の節「すしや」をお弾きいだいて以来、五十六年第二十回リサイタルの「新口村」の舞台をおつとめいただきます迄長い間、相三味線として大変御世話になりました。

常日頃正義感が強く、併せて責任感が重く、いらっしやった姉様は、それだけに御自身

よいにつけ悪いにつけ、鼠はわれわれ人間社会に非常に密接な関係がある。

一時代前の年賀状に、バーのママサン寝惚れ姿で足を投げ出し、ウインクして「ねえー、というのがあった。ねずみを通り越して面白い。

では、本年も、ねえ、よろしく義太夫協会の今後の発展を祈ります。

の芸についても、とりわけきびしい御方であられました。私の義太夫人生にも大きな影響力を興えて下さいました事を厚く御礼申し上げます。

去る九月廿八日 鶴澤友路師匠様にお稽古をしていただく為、淡路島へ出掛けまして十月一日夜帰宅しましたところに姉様の訃報が待つて居りました。

二日のお通夜、三日告別式と姉様のお顔を見てお別れする事が出来ました。

承れば御他界なされたのは廿九日との由。

一日迄留守をしていた私がお別れの儀式に臨む事が叶いましたのは姉様が私にもお別れを下さりたくてお待ち下さったとしか思えません。改めて相三味線と太夫との深い絆を思わずにはられませんでした。

舞台以外のおつきあいとして洋画ファンであられた姉様と「アラビアのロレンス」等楽しい時を過ぎた思い出もつきません。

津賀昇姉様 本当に有難うございました。合掌。

貴重な芸の心を失って

— 津賀昇師を慕う —

中川 哲

私の青春は戦争のなかで過ぎ去った。

当時は竹本相玉（明治末期の女義で、大正五年に舞台は退いた）に「太十」の手ほどきをして貰ったのが唯一の救いであった。

歿後、岡田蝶花形先生の紹介で津賀昇師の許にいつてから、三十年近い。弟子でもあるし、心を許してなんでも喋れる友だちでもあった。だが、「私が死んでも、なにか書いたり喋ったりしては駄目よ」とさんざん言われた。自分にきびしく、江戸っ子のシャイな気性と負けず嫌いを内側に隠した師の温容と謙虚さを思うと、なにも書けない。

小津賀の芸に惚れこんでいた私が「美濃屋」をやりたと言ったときには、私製録音（銀座「白牡丹」のご主人の手になるとか）の小津賀・三生を聴きこまされたうえで、やっと稽古に取りかかってもらった。

「太十」「裏門」「組討」とまず時代ものの息と間、なによりも腹の発声を、十年近く鍛えられた後だったが、やればやるほど難しくなると同時に面白さも限りなく深まる。

おなじものを三年やっても五年やっても、その度に発見があり、上の段に昇っていく楽しさを師はいつも導いてくれた。

おなじ小津賀を手本にしての「質店」はお染のクドキまでで終わってしまったが、一句一句に、腹の使い方、息の継ぎ方、節の廻し方、音の調整を直されつづけた。

津賀昇という人は素晴らしく音感のいい人で、師匠の津賀大夫をはじめ昭和初期の名人たちの語りも三味線も耳と頭にぎっしり詰めこんでいた。舞台に出ていても、素人の稽古をしているときでも、それら未来の名人たちに見たり聴いたりされていたのではあるまいか。自分を許せないと同時に、他人の怠慢や停滞にも我慢のできない几帳面さを持っていたように思う。それをまた、外に出すまいとする無理が病気を進めさせたときえ思える。真剣に日本の芸を語りあえる貴重な人をもた一人失ってしまった。

計 報

■田中 義男氏 義太夫協会顧問
平成7年7月12日逝去
顧問として協会の発展に御尽力下しました。
享年94才。

■松尾 稚子様 平成7年10月2日逝去
前大日本素義会会長故松尾武市氏夫人
松尾氏亡きあと大日本素義会の運営に携わり、発展に勤められました。

御冥福を心よりお祈り申し上げます。

96都民芸術フェスティバル

第26回 邦楽演奏会

*平成8年3月9日(土)

*朝日生命ホール(新宿駅西口)

*東京都助成特別料金一五〇〇円

邦楽連合会(義太夫・清元・古曲・新内・常磐津・長唄・三曲)主催の年一回の演奏会。オペラ・オーケストラ・バレエ・ポピュラー・演劇・舞踊 etc. におかれて「邦楽よいずこへ：」

〈昼の部 開演：正午〉
壺坂観音霊驗記

沢市内より壺坂寺の段

浄瑠璃―竹本越道

三味線―豊澤源平

〈夜の部 開演：四時〉
新作歌祭文

野崎村の段

久作―竹本 素八三味線 鶴澤津賀寿

お光―竹本 朝重ツレ 鶴澤三寿々

母―竹本 土佐恵ツレ 鶴澤津賀榮

お染―竹本 綾一ツレ 鶴澤寿々香

久松―竹本 越孝ツレ 鶴澤紋 榮

*お申し込みは義太夫協会へ

協会の動き '98 '97 年 9 月より 年 1 月まで

11月7日 公演部会 於文明堂

11月20日 理事・監事変更届け東京都教育庁に提出

11月22日 教師のための義太夫講習会「地合・詞・色とフシ」企画・構成・講演

11月27日 一景山正隆 於国立演芸場

11月29日 平成7年度民間芸術等振興費補助金(青少年等芸術普及)交付内示

11月30日 民間芸術等振興費補助金(青少年等芸術普及)交付申請書提出

12月7日 民間芸術等振興費補助金(青少年等芸術普及)交付決定

12月7日 NHK教育テレビ「芸能花舞台」収録

12月7日 久振りのテレビ収録とあって、公演会とはまた違った緊張感がスタジオを覆っていましたが、NHKスタッフに見守られ無事終了。お疲れ様でしたの声に送られ、師走の渋谷をあとにしました。

12月8日 今回の収録に際し、お力添え下さったNHK厚生事業団、NHKスタッフの皆様にお礼申し上げます。

12月8日 放送は12月16日(土) 利根川 裕さんの解説です。

12月12日 邦楽連合会 於「サロン・ド・サンク」

12月12日 平成8年度民間芸術等振興費補助金に関する説明会 於文化庁

10月12日 平成8年度芸術文化振興基金助成活動募集に関する説明会

10月17日 義太夫節保存会・平成7年度文化財保存事業費国庫補助金交付決定

10月17日 義太夫節保存会・平成7年度東京都文化財保存事業費補助対象事業の内定

10月20日 女流義太夫演奏会「故鶴澤重輝師を偲ぶ」 於国立演芸場

10月20日 鶴澤重輝師ご逝去より早一年、舵を失った船は無我夢中でした。追善公演を無事終えて少し御恩返しが出来たような気がいたします。

10月25日 大阪から源平師はもとより、綾春師そして今回始めて演奏会に出演して下さった豊澤離代師に、あらためて御礼申し上げます。

11月1日 常務理事会 於文明堂

11月1日 文化財保存事業費国庫補助金支払請求書提出

11月1日 文化財保存事業費東京都補助金交付申請書提出

10月12日 平成8年度芸術文化振興基金助成活動募集に関する説明会

10月17日 義太夫節保存会・平成7年度文化財保存事業費国庫補助金交付決定

10月17日 義太夫節保存会・平成7年度東京都文化財保存事業費補助対象事業の内定

10月20日 女流義太夫演奏会「故鶴澤重輝師を偲ぶ」 於国立演芸場

10月20日 鶴澤重輝師ご逝去より早一年、舵を失った船は無我夢中でした。追善公演を無事終えて少し御恩返しが出来たような気がいたします。

10月25日 大阪から源平師はもとより、綾春師そして今回始めて演奏会に出演して下さった豊澤離代師に、あらためて御礼申し上げます。

11月1日 常務理事会 於文明堂

11月1日 文化財保存事業費国庫補助金支払請求書提出

11月1日 文化財保存事業費東京都補助金交付申請書提出

〔平成7年〕

8月7日 公演部会 於文明堂

8月22日 女流義太夫演奏会(芸術文化振興基金助成)芸団協助成第21回若手勉強会 於国立演芸場

9月4日 義太夫教室第48期語りコース・三味線コース中級開講 於演舞場スペースアルファ

9月6日 平成7年度芸術文化振興基金助成金交付決定通知(8月31日付け)

9月11日 芸団協助成金交付決定通知(8月31日付け)

9月20日 教師のための義太夫講習会「竹本義太夫の芸談」企画・構成・講演

9月28日 一吉川英史 於国立演芸場

10月1日 平成7年度事業報告・決算報告、平成7年度事業計画・収支予算、東京都教育庁に提出

10月7日 平成7年度公益法人概況調査票 東京都教育庁に提出

10月7日 祖先祭 初代竹本義太夫はじめ義太夫関係諸先輩の墓参ならびに法要 於回向院



(芸能花舞台収録風景)

12月12・13日 女流後継者育成事業「七福神」

「新口村」(野澤喜左衛門師指導)

於国立劇場

12月13日 平成6年度民間芸術等振興費補助

金(青少年等芸術普及)概算払い

請求書提出

12月22日 新人正会員オーディション

於国立劇場第二演芸研修室

12月22日 女流義太夫演奏会第25回心身障害

児のための特別公演(チャリティ・NHK厚生文化事業団共催)

於国立劇場

(チャリティに御協力有難うございました。結果は次号にて御報告させていただきます。)

12月28日 常務理事会及理事会

於文明堂

8年1月1日 義太夫協会会報第62号発行

平成七年文化庁長官表彰

鶴澤友路師に

鶴澤友路理事(重要無形文化財総合指定保持者)は、平成七年度文化庁長官表彰を受彰されました。友路理事には近年、頻繁に女流義太夫演奏会にご出演頂き、巧みなバチ捌きを楽しませて頂いておりますが、地元淡路での活躍も見逃すわけにはまいりません。重要無形民俗文化財・淡路人形浄瑠璃の指導者として、後継者の育成に力をつくされ、活躍している演奏家は皆友路師の指導を仰いでいるとのこと。一月の女流義太夫演奏会には上京され、朝重副会長と「酒屋」を演奏して戴く予定です。

平成七年度芸団協助成新人奨励賞

鶴澤寿々方に決定

3月22日 演芸場で祝う会

平成七年度芸団協助成新人奨励賞は、鶴澤寿々方(故竹本駒之助門下)に授与されることに決まりました。体調を崩し、舞台から少し遠ざかっていましたが、徐々に回復し三味線を手に出来なかったことが、「弾きたい」という純粹な情熱につながりました。奨励賞受賞が一層の起爆剤となるでしょう。

【鶴澤寿々方略歴】

昭和44年 NHK邦楽技能者育成会14期卒業

49年 一中節を十一世家元一中に師事

60年 宮園節・荻江節を宮園千祿に師事

63年 竹本駒之助に入門

平成2年 国立劇場演芸場に於て初舞台

―地域文化功労者表彰―

文化庁では全国各地において、芸術文化の振興、文化財の保護に尽力する等、地域文化の振興に功績のあった個人及び団体に対して、その功績をたたえた文部大臣が表彰する「地域文化功労者表彰」を昭和五八年度より実施しています。岩手県より、元女流義太夫指導者として斎藤ただ子さん(八十一才)が受彰されました。会報60号で紹介しました竹本津賀広さんです。昭和八年竹本津賀太夫に師事、末広亭などで女流義太夫として出演、その後岩手県にて、人形芝居の普及に携わりました。

八王子車人形・西川古柳座

―五代目西川古柳襲名―

女流義太夫演奏会で度々共演頂き、皆様にもお馴染みの八王子車人形・西川古柳座。その歴史は古く文政八年にまで遡ります。西の「文楽」に対し東の「車人形」は、一人の遣い手により、また人形が直接舞台に足をつけて演技をするという、世界にも珍しいスタイルの人形遣いです。昭和四十五年に現四代目が襲名し、海外公演・芸術祭に参加するなど活発な演奏活動が続けて来られましたが、西川柳時さん(長男)が五代目西川古柳を襲名することになりました。併せて、柳玉さん(次男)が西川柳時を名乗り柳玉さんの息子が柳玉を名乗ることです。そして四代目は宗家西川柳峰になられます。襲名披露は、十月二十六日、八王子市芸術文化会館にて。口上
が楽しみ!



— 会員の皆様からのお便り紹介です —

☆古典の伝承も必要でしょうが、新作の発表はもっと大切だと思います。

一賛助会員より

老閑抄

津賀寿賛歌 五首

弥生丸

たまきはる命たのしも津賀寿てふ
をとめの絃を聴きてしあれば

十五代目の倂追ひつ聴き入りぬ
十人斬りの絃の響きを

狐火の飛び交ふに似て妖しけれ
天降るかの絃の響きも

こころよき野崎のおくり聴くときは
空蟬の世もたのしかるべし

重の井のかの悲しみに似たるかな
ある時重き絃の響きも

おのれ俳歴六十余年なれど、短歌は過去一
二首詠めるのみ、老いのすさびのみそひと
もじ、ほんに只今のお笑草にこそ。

平成七年九月末日

老閑抄

津賀寿賛歌 二一五首

弥生丸

かくばかり人を泣かしめ酔はしむる

音締め美し人も美し

長唄も新内も捨て太禰の

道に入りにし美しこのひと

細き指細き腕より鳴り出づる

かの絃の音の人を酔はすも

妙音天この現世に生まれて

名をば鶴澤津賀寿とぞいふ

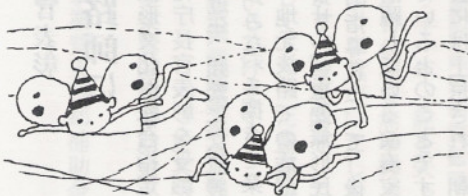
ヴィーナスとミュージズの神に愛されし

ひとに遭へるを吾が幸とせし

老いのすさびの腰折れをあつかましくも
二度の御見、たゞ橙の数に免じ、許し絵
はれとしかいふ。

平成十二年朔日

初代綾之助が活躍した明治中頃、愛好家により「浄瑠璃と文藝」「浄瑠璃世界」等の研究本・新聞等がいろいろ発行されています。勢いある活動をサポートする本会報は、皆様からのお便りをお待ちしています。



〈寄贈〉

小野木豊昭様

太禰三味線素材

1

上口フジ様 (故鶴澤多美子さんご遺族)

三味線用桐箱

1

稽古本

20冊

記録テープ他

鶴澤宏太郎様

アガリ糸

高野俊雄様

仮名手本忠臣蔵プログラム

4000部

同当日用プログラム

3000部

どうも有難うございました。

— 予告 —

「女流義太夫—三越名人会」に登場
来る1月31日(水)三越劇場にて開催される
三越名人会に出演致します。出し物は御祝儀
もの「寿式三番叟」何と10丁10枚という大所
帯。華やかな舞台が期待されます。

(浄瑠璃)

(三味線)

竹本朝重	鶴澤津賀寿
竹本駒之助	鶴澤寛也
竹本綾一	鶴澤駒治
竹本土佐恵	鶴澤寿々方
竹本越若	鶴澤三寿々
竹本越孝	鶴澤津賀榮
竹本土佐子	鶴澤寿々香
竹本越京	鶴澤紋榮
竹本佳之助	鶴澤弥栄
竹本駒輝	鶴澤弥吉

義太夫カレンダー

義太夫協会の諸事業の予定がおおよそ決まりました。正会員の演奏活動など併せてお知らせいたします。(上半期分)

一月
*十八日(木)・初顔合わせ
・女流義太夫演奏会

6時30分開演 (於 国立演芸場)
*三十一日(水) 三越名人会 (於 三越劇場)

二月
*三(土)~六(火) 乙女文楽と車人形 (於 青山円形劇場)
6時30分開演

*二十二日(木) 女流義太夫演奏会 (於 国立演芸場)
6時30分開演

*二十四日(土) 義太夫教室OB演奏会
現在受講中の48期生の卒業発表と諸先輩たちの演奏 20数高座
11時開演(予定) 入場無料

三月
*二日(土) 竹本 駒之助の会 (於 東京証券会館ホール)
2時開演

*二十二日(木) 女流義太夫演奏会 (於 紀尾井ホール)
6時30分開演

*三十日(土) 竹本 越若素浄瑠璃 (於 国立演芸場)
(於 ACT SEIGEL-THEATER)

四月

*七日(日) 義太夫一日体験教室
講師 師 竹本素八(予定)
参加費 1500円 *定員 40名

(於 演舞場スペースアルファ)
*十四日(日) 三味線の一日体験教室
講師 師 鶴澤寛也(予定)
参加費 3000円 *定員 30名

(於 演舞場スペースアルファ)
*二十日(土) 女流義太夫演奏会 (於 国立演芸場)
6時30分開演

五月
*二十二日(水) 女流義太夫演奏会 (於 国立演芸場)
6時30分開演

*二十七日(月) 「義太夫教室」第49期開講
6時30分~8時40分(全16回)
内容 語り実技実習・三味線手ほどき
講義 義一作品研究・音調基本ほか
受講料 30000円(テキスト代共)
定員 50名 (於 演舞場スペースアルファ)

六月
*二日(日)・三日(月) ひこばえ公演
若手三味線寛也・駒治・津賀寿の勉強会 (於 お江戸日本橋亭)

*二十三日(日) 女流義太夫演奏会 (於 国立演芸場)
1時開演

七月
*二十日(土) 女流義太夫演奏会 (於 国立演芸場)
6時30分開演

田 お稽古場誕生 田

国立の研修室・布善倶楽部等を主な稽古場として研修に励んできましたが、最近思うように予約することが難かしく、稽古場の確保に、稽古以上のエネルギーを費やすという状況でした。そんな折、銀座にある「永谷オフィス」では、ビルの一部を邦楽関係の稽古場として提供して下さいました。協会事務所から歩いて二・三分という地の利。詳細は事務局又は、永谷オフィス銀座インフォメーションまで。

永谷オフィス銀座インフォメーション
05565-5251

義太夫教室 第47期 初級入門コース

8年5月27日	月	8年5月31日	金
6月3日	月	6月7日	金
6月10日	月	6月14日	金
6月17日	月	6月21日	金
6月24日	月	6月28日	金
7月1日	月	7月5日	金
7月8日	月	7月12日	金
7月15日	月	7月19日	金

新入会員御紹介(五十音順・敬称略)

正 誤 表

義太夫協会会報「義太夫第61号」に下記の誤りがありましたので、お詫びして訂正します。

頁	誤 り	訂 正
1頁中段	吉川英史氏名誉顧問	最高顧問
2頁中段	[顧問] 田中義男 [相談役] 久保庭信一 日本音楽著作権協会常務理事 [相談役] 高橋芝雄 伝統芸能研究所所長	平成七年七月七日御逝去 東邦生命(株)顧問 白梅学園短期大学教授
6頁下段	中村 雁次郎	中村 鴈治郎
12頁上段	(賛)古志百合子 (正)豊澤勝二郎 赴 報	古曾志百合子 とよざわかっじろう 訃 報

〈短 信〉

□賛助会員のキミ・コールドレイクさん(ア
デレイド大学教授)は英国ラウトレッジ社か
ら、女流義太夫や日本の舞台芸術に関する学
術書を刊行予定。著書には付属CDもあり、
本牧亭時代の女流義太夫演奏会の番組も収録
する意向。わが女流義太夫の演奏も世界中の
多くの読者にお楽しみ頂けることでしょう。
□賛助会員の本間紀久子さん(浅草中学校教
諭)は、教育・文化の功労者に贈られる「第
二十六回博報賞―文部大臣奨励賞(伝統文化
教育部門)を(財)博報児童教育振興から受
けられました。中学の部活動で端唄・三味線
を指導し、文化祭や発表会等で披露しており、
その功績に対して贈られたものです。
「日本固有の伝統文化である三味線、次世代
に受継いでいくのが役目」と語ります。いつ
の日か太棹と合奏が出来たら楽しいですね。

編集後記

新年、あけましておめで
とうございます。

昨年、六月、十二月とプロを目指して、二人
の女性(ともに二十代)が正会員オーディシ
ョンを受けそれぞれ一年間の見習い期間に入
った。階段をトントンと掛け上り、重い
見台も一気に運んでしまう。何よりも「おは
ようございます」が若さを強調している。財
政難等きびしい状況下の協会にあって、まだ
まだ大丈夫と思わせてくれる。取り戻せない
ものが若さなら、最大限に生かして欲しいと
思う。老婆心ながら……ちよっと嫉妬かな?